

津久井湖誕生 一相模川総合開発共同事業史一

完成

昭和40年3月、城山ダムは工事費約98億9,500万円をかけて完成しました。

また、昭和39年9月より湛水を開始してできた貯水池は「津久井湖」と命名されました。

昭和40年4月10日には、城山ダム竣工「渡り初め」式が行われました。渡り初めには水没移転者の方々が招待されました。

以後、城山ダムの天端は一般道路として開放されています。



完成した城山ダム



記念碑 除幕式



テープカットの様子



「渡り初め」式



城山発電所及び城山ダム完成後は、皇太子殿下(現在の陛下)もご視察されました。

水没移転者、記念の憩いの場 一津久井湖記念館の建設一

昭和36年2月、県は相模川総合開発事業(城山ダム建設)による個人補償の交渉の中で、水没者の将来における生活の安定向上を恒常的に図ることを目的とした「城山ダム建設に伴う総合施策要綱」を発表しました。同要綱には、水没者団体の希望により記念会館の建設が盛り込まれました。

昭和40年3月21日、「津久井湖記念館」は、湖底に沈んだ故郷を見渡せる共同事業用地の高台に建設されました。

美しい緑と山々に囲まれた津久井湖畔に造られた、この津久井湖記念館及び周辺施設は、水没関係者を始め、ダム施設見学者や行楽客の憩いの場として、県内外の人々に広く利用されています。



年表・城山ダム基本データ

●津久井湖関連年表

昭和	19	10	6	津久井発電所2台目(1号機)竣工、仮使用認可	
			12	21	相模ダム湛水開始、翌20年1月20日満水
	35	4	13	相模川水系水利使用許可申請	
		5	1	県に相模川総合開発事業対策本部を設置	
		10	1	城山ダム関係水没個人補償の基本方針を地元関係者に提示	
	36	4	1	神奈川県相模川総合開発共同事業の運営を開始	
		8	9	城山ダム関係水没者182世帯(4団体)と補償基本協定に団体調印	
	37	2	15	相模川総合開発事業総合起工式	
	38	1	7	相模川水系水利使用許可	
		8	19	水没移転者285世帯のうち最後の1世帯が個人補償契約書に調印	
	39	3	30	寒川取水施設完成	
		9	1	城山ダム一部湛水開始	
	40	3	31	城山ダム完成	
		4	1	城山ダムの竣工式挙行政	
		5	27	城山貯水池全面湛水(満水面標高124m)	
		10	29	城山発電所使用前検査終了 11月1日営業運転開始	
平成	11	4	1	相模ダム・城山ダムは宮ヶ瀬ダムの一部運用に伴い、宮ヶ瀬ダムと連携した総合運用を開始	
	13	4	1	相模ダム・城山ダムは宮ヶ瀬ダムの完成に伴い、宮ヶ瀬ダムと連携した本格的な総合運用を開始	
	27	3	31	城山ダム完成50年	

●城山ダム諸元

形式	重力式コンクリートダム
堤高	75.0メートル
堤頂長	260.0メートル
湛水面積	2.47平方キロメートル
総貯水容量	62,300,000立方メートル
有効貯水容量	治水54,700,000立方メートル
	利水51,200,000立方メートル
常時満水位	標高124.0メートル
完成年月	昭和40年3月

